

はじめに

これからの教育には、子どもたちが、健康な身体、豊かな心、確かな学力とともに、将来、地域社会や国際社会の一員として、高い志をもってたくましく生きていく力を身につけることが求められています。

中高一貫教育は、中学校と高校との「連続性」を強め、一貫した教育活動によって、「滑らかな接続」と「きめ細やかな指導」を可能にします。さらに、地域社会の一員として、安心、安全で活力ある地域づくりに貢献する人材の育成に役立つ可能性ももっています。6年間の教育を通して、子どもたちの個性、能力、創造性を伸ばす中高一貫教育は、時代が要請する教育であると期待されてきました。

岐阜県では、県立揖斐高等学校と揖斐川町立揖斐川中学校及び北和中学校、県立八百津高等学校と八百津町立八百津中学校及び八百津東部中学校を連携型中高一貫教育校としました。こうした先進事例の成果を検証し、本県が抱えている教育的、地域的な課題を総合的に検討した時、岐阜県教育委員会は、中高一貫教育の一層の推進を図るべきであるという結論に達しました。この基本方針は、その道しるべであり、この基本方針の趣旨に賛同する市町村と県が協働して、新たな連携型中高一貫教育校を設置するとともに、中等教育学校や併設型中高一貫教育校の設置についても、引き続き検討をすすめることにしました。

基本方針の策定にあたっては、平成18年度、岐阜県中高一貫教育研究会（鈴木誠座長：岐阜経済大学教授）において、岐阜県の子どもたちにとってのあるべき中高一貫教育について、広い視野から実証的な研究が行われました。平成19年度、20年度は、岐阜県中高一貫教育検討会（北俊夫会長：国土舘大学教授・前岐阜大学教授）において、中高一貫教育のみならず広く岐阜県の教育の在り方についての多くのご示唆をいただきました。この基本方針の研究、検討に携わっていただいた委員のみなさまに深く感謝いたします。

平成20年12月

岐阜県教育委員会 教育長 松川 禮子